

いもち病・初期害虫の防除が、
**水稲栽培の
 コアだ!**



**ルーチン®
 コア**
 箱粒剤



防除必須な
 病害虫に特化。
 効果と低コストを実現。
 これからの主役はコアだ!



いもち病



イネミズゾウムシ



イネドロオイムシ



ニカメイチュウ



慣行播種
 箱当り
 50g

高密度播種
 箱当り: 50~100g
 (1kg/10aまで)

製品情報の
 詳細は
 こちらから



®ルーチンはバイエルグループの登録商標

▶▶▶ 使用時期：移植3日前～移植当日 ◀◀◀

ルーチン® コア箱粒剤

農林水産省登録 第24158号

- 成分：チアクロプリド……1.45% 殺虫剤分類 4A
イソチアニル……2.0% 殺菌剤分類 P3
- 性状：類白色細粒
- 毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

特長

- ネオニコチノイド系殺虫剤のチアクロプリドと抵抗性誘導型殺菌剤のイソチアニルとの混合剤です。
- 優れた浸透移行性と長い残効性により、いもち病やイネミズゾウムシに高い効果を発揮するほか、ニカメイチュウにも有効です。
- イソチアニルは抵抗性誘導型殺菌剤のため耐性菌発達のリスクが小さく、白葉枯病などの細菌性病害にも有効です。
- 移植3日前から移植当日まで使用可能です。
- 高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50~100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。*ただし、10a当りの処理量は最大1kg/10aです。

適用病害虫および使用方法

2021年11月現在の登録内容

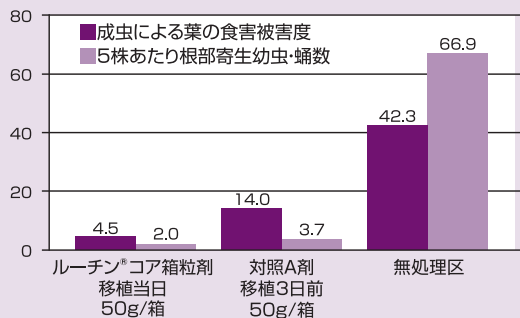
作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	イネドロオウムシ イネヒメハモグリバエ ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ いもち病、白葉枯病、内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前 ～ 移植当日	本剤:1回 チアクロプリド:1回 イソチアニル:3回 (移植時までの処理は 1回、本田では2回)	育苗箱の 上から 均一に 散布する
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌 約5ℓ)1箱当り50～100g)			

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

試験成績

イネミズゾウムシへの効果

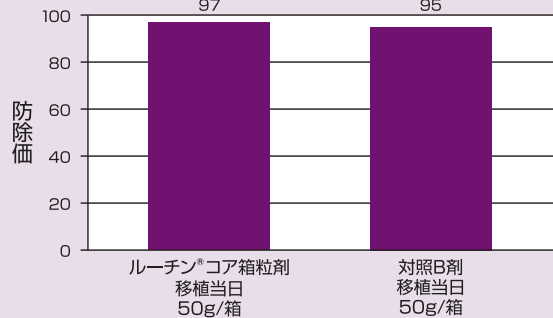
2017年 青森県植物防疫協会



品 種：つがるロマン 発生状況：多発生 移 植：5月21日
処 理：5月18日(移植3日前)、21日(移植当日)
調 査：6月15日(地上部)、7月7日(根部)

葉いもちへの効果

2017年 日本植物防疫協会岡山試験地



品 種：にこまる 発生状況：多発生(接種) 移 植：6月21日
処 理：6月21日(移植当日)
調 査：7月26日 接 種：7月6日、12日

注意事項



- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糞として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。
- さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさせて下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

- 誤食などのないよう注意して下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けて下さい。
 - 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
 - かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
 - 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
 - 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
 - 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。
- ★田植同時施肥機で使用する場合は、農機販売会社に本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。